

セルビアにおけるエコロジーと環境活動

筑間 拓実

私は昨年（2015年）の夏に東京で行われたビデオワークショップに参加し、そして今回のセルビアのワークショップにも参加させて頂きました。セルビア滞在中には、「エコロジーと環境」に関わる様々な場所を訪れました。以下では、私たちが取材した、セルビアの環境に対する様々な取り組みについて紹介したいと思います。

ワークショップ3日目の3月25日（金）、私たちはベオグラード北方のオモリツツアにある電化製品や大型機器等のリサイクルセンターを訪れました。そこでは解体作業を行っているいくつかのフロアを見学し、部品の分解や、作業員の方がパソコンやテレビの部品を実際に分解している様子を見学することができました。ここには大型機器を自動で分別する機械等の多くの設備が整っていて、リサイクル事業にしっかりと目を向けていると感じました。また工場を見学する中で、ごみを分別することの重要さを改めて認識しました。

ワークショップ5日目の3月27日（日）には、私の通う木更津高専と同じ工学系の学校であるパンチェボ機械学校を訪問しました。この日は日曜日だったにもかかわらず、機械学校の先生や生徒たちが私たちを迎えてくれて、学校施設や実験室を案内してくれました。学校には3DプリンタやCNCフライス盤などの設備が整っていました。またこの学校では、自動分別装置や風力発電機の製作に取り組んでいました。セルビアでも同じ世代の同じ専門分野の仲間たちが活躍していることを知り、とても刺激になりました。

ワークショップ6日目の3月28日（月）には、バスで約3時間かけてパンチェボからセルビア北部にあるチュルッゲとスポティツアに向かい、チュルッゲにあるバイオマスの施設とスポティツアにある浄水場を訪れました。

初めに訪れたバイオマスの施設では、広大な敷地にたくさんの乳牛が飼育されていて、牛の糞を利用して化石燃料に代わる再生可能エネルギーの生産が行われていて、バイオマス資源の生産工程を知ることができました。私は、家畜を利用してエネルギーを生産している場所を見るのは初めてだったので、とても新鮮な感覚でした。

次にスポティツアにある浄水場を見学しました。その近くにはパーリッチ湖という湖があります。スポティツア周辺の人口が急増し、生活排水、工業廃水がパーリッチ湖に流入し、水質汚染が深刻な問題となつたそうです。汚染されたパーリッチ湖を浄化するため、2009年にドイツの支援を受けて、この浄水場が建設されました。水がきれいになり、再び海水浴ができるような湖になることが、この浄水施設の目標だそうです。日本でも1950年代に、水俣病のような水質汚染の問題がありました。水質汚染の問題は、今なお世界的な問題であることを実感しました。

またワークショップ7日目の3月29日（火）には、ベオグラードにある日本大使館を訪れる機会もありました。大使館職員の大森優一郎さんから在セルビアの日本企業や、ベオグラードの大学生が行っている環境に関する取り組みについて聞くことができました。ベオグラードを流れるドナウ川をきれいにするため、セルビアの大学生がゴミや空き缶を拾ったり、洪水が起きたときに赤十字と協力して土嚢を積む作業を行っていることを知りました。市民や学生たちが自ら環境問題について取り組んでいることに感心しました。

またこれらの訪問先の他にも、パンチエボの郡庁舎やパンチエヴォ新聞社でもセルビアのエコロジーと環境についてインタビューをさせていただきました。パンチエボでは、電気自動車や電気バスを普及させることで、環境に優しい町づくりに取り組んでいるそうです。

今回のセルビアでのワークショップでは様々な場所を訪問させて頂きましたが、それぞれの活動場所で環境に対する取り組みを実践していることが分かりました。私自身も、日常的に環境についてもっと関心を持つべきだと感じました。

ドイツ語を通じて、海外の環境問題について知ることができたり、異文化に触れることは素晴らしい体験でした。日本では経験できないような日々を、セルビアでは過ごすことができました。